

VI 茨木遺跡 2号住居出土の暗文土師器について

高橋 透

1. はじめに

茨木遺跡（現在は「税所屋敷遺跡」に名称変更されているが、本稿では「茨木遺跡」と呼称）は石岡市南東部の高浜入に近い恋瀬川を望む石岡台地上に位置し、北西約400mのところには古代寺院跡の茨城廃寺跡、南東約500mには6～8世紀の集落遺跡である田崎遺跡が存在する（第1図）。1983年に山内ストア建設工事に伴う事前調査がおこなわれ、堅穴住居2棟、溝2条、土壙2基、ピット8基が確認されている（堀越1984）。なかでも2号住居覆土からは多数の土器が出土し（第3図）、8世紀第1四半期と推定されている。

その2号住居からは1点の暗文土師器が報告されている（第2図1）。しかし未報告資料を含めて再整理

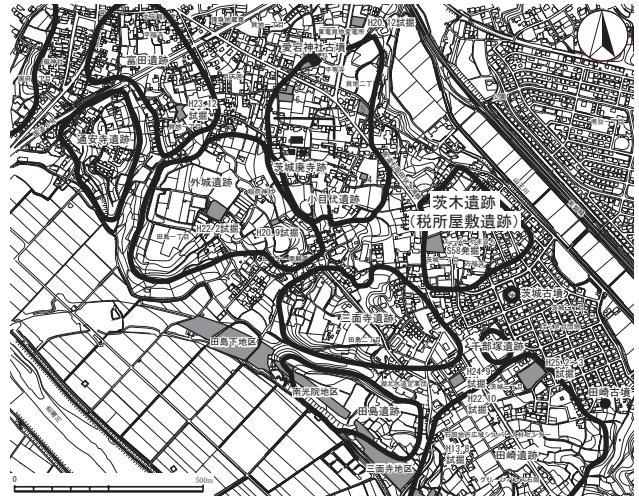
したところ、他にも複数の暗文土師器を確認した。報告書が作成された1983年頃は暗文土師器に関する研究が進んでおらず、その存在が重要視されなかったことは否めないが、現在では地方出土の畿内産土師器の研究（林部1986・1992）、あるいはそれを模倣した在地の暗文土師器の研究（鶴間2001・2006）が進展し、最近では渥美賢吾（2013）によって茨城県内での状況がまとめられ、畿内産土師器の出土例も僅かであるが確認できるようになっている。こうした研究状況から、本稿では2号住居出土暗文土師器を紹介し、茨城県内の出土例と合わせて若干の考察を加えたいと思う。

2. 2号住居出土の暗文土師器と畿内産土師器

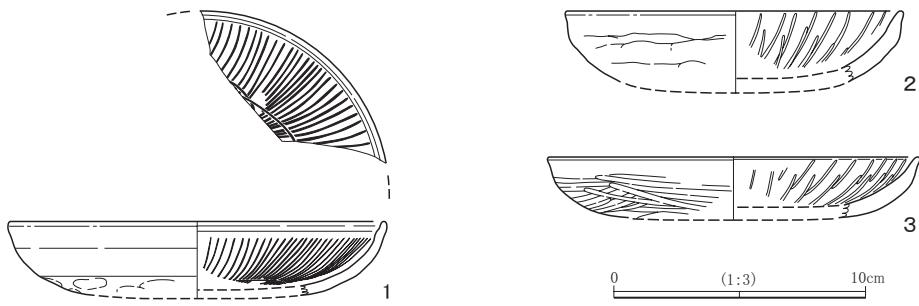
2号住居からは暗文の施された土師器片が10点程度しているが、ここでは反転復元可能な3点を紹介する（第2図）。1の壺は復元口径14.8cm、残存高2.9cmであり、底部から体部外面がユビオサエで口縁部はヨコナデし、全体に薄手なつくりである。体部は丸みをもって立ち上がって口縁部が僅かに外反し、口縁部内面に凹線状の沈線をもつ。体部内面は1段放射状暗文を施し、暗文それぞれの位置関係や重複状況から、残存部分の暗文は大きく2単位に分けて施されたと考えられる。なお底部中央にはラセン状暗文の一部が確認できる。胎土は砂粒をやや多く含むが目立つ含有物は少なく精選されており、在地産土師器である2・3とは明らかに異なる。これらの特徴から、この個体は畿内産土師器壺Cの可能性が高い。なお都城編年（川越2000、西1978）に照らし合わせれば、体部が屈曲せずに丸みを持つこと、残存状況から器高が2.9cmよりも著しく大きくならず径高指数20～22におさまることから、飛鳥IV～Vに併行する時期の所産と考えられる。

2の壺は復元口径13.2cm、残存高2.8cmで体部外面にヘラケズリを施す。体部と口縁部の境に鈍い稜をもち、口縁部はやや外傾して立ち上がり、端部は僅かに外反する。内面には2段に分けて暗文が施され、暗文はやや太くそれぞれの間隔や上端の高さが不揃いで、施し方は1に比べ稚拙である。3の皿は復元口径14.6cm、残存高2.4cmで体部外面は手持ちヘラケズリ後にヨコ方向ヘミガキを施す。体部はやや丸みを持ち、口縁部は直立して端部が外反する。内面は2と同様、稚拙な2段の暗文を施す。

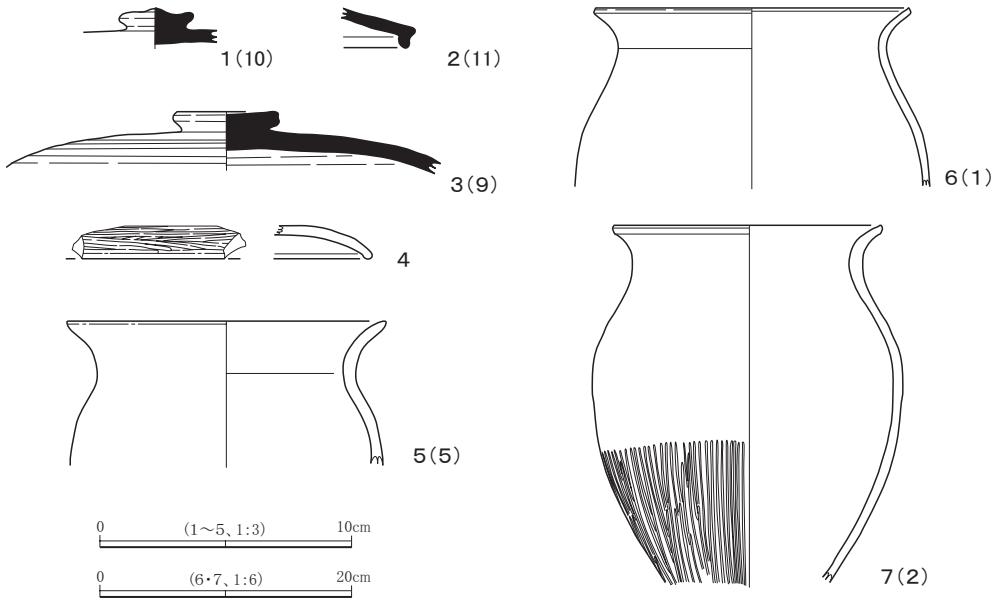
以上が暗文土師器であるが、その他の注目すべき土師器として第3図4の蓋が挙げられる。細片であるため口径



第1図 茨木遺跡(税所屋敷遺跡)と周辺の遺跡



第2図 茨木遺跡2号住居出土の暗文土師器



第3図 茨木遺跡2号住居出土土器(1~3・5~7は堀越1984を再トレース、括弧内は報告書番号)

は復元できないが、残存高1.3cmで形態は扁平なドーム状を呈し、口縁端部はやや肥厚して断面菱形状をなす。天井部外面にはヨコ方向へ密なミガキを施し、内面は丁寧なヨコナデが観察できる。胎土は緻密で精選されており、畿内産土師器と考えられる。

3. 考察

前節で畿内産土師器坏C・蓋、在地産の暗文土師器坏・皿を紹介したが、最後に若干の考察を加えたい。まず前者について、石岡市での畿内産土師器の出土はこれまでに東成井山ノ神遺跡SI06（曾根2012）で蓋が1点報告されているにすぎず、時期を特定できる資料は今回紹介した坏Cのみで、貴重な資料といえる。

一方で茨城県全体の出土例をみた場合、畿内産土師器の可能性が高い資料⁽¹⁾は鹿嶋市厨台遺跡群LR18地区SB10出土坏A（石橋・小松崎2007）、神野向遺跡SB02出土坏A（石橋・風間2005）、鹿島神宮境内遺跡出土坏A・坏B・蓋（石橋2012）など、現状では石岡市内と鹿嶋市内に限られる。つまり茨城県の傾向としては、県南の内海周辺に集中することが指摘できるだろう。ただし周辺の状況と比較すれば、霞ヶ浦の南に位置する千葉県の印旛沼周辺では畿内系土師器を含め多数出土しており（中島・松本2000）、茨城県とは際立って異なる。こうした状況はむしろ、福島県や宮城県で出土例が僅かであること（木村2000）と類似するが、その意味については不明である。

次に後者に関して、鶴間は常陸の7世紀から8世紀にかけての資料が不足しているため今後の課題としつつも、常陸はいわゆる「新型坏」の特徴⁽²⁾を持つ坏が少なく、供膳具の須恵器化が最も進んだ地域とし（鶴間2001：p.94）、渥美は「新型坏」の不在こそ常陸における土器生産の特質であったと説く（渥美2013：pp.13-18）。しかし

今回紹介した暗文壺・皿のように、畿内産土師器を模倣した土師器は常陸国府の置かれた石岡市で出土することは明らかで、また隣接する田崎遺跡（斎藤・本橋2010）や田島遺跡（飯泉2006、飯田2009、小野2008）では6世紀から8世紀の集落が確認され、7世紀代の土師器供膳具が一定量認められる。すなわち、常陸国全体で供膳具の須恵器化が進むなかで、国府周辺でそうした土師器供膳具が存在することに意味があると考えることもできるが、現状では十分な土器の検討をおこなってないため、その可能性を含めて今後の課題である⁽³⁾。

4.まとめ

ここまで茨木遺跡2号住居出土の暗文土師器の紹介とその意義に関する若干の考察をおこなった。茨木遺跡2号住居出土例は時期比定可能な畿内産土師器が出土しているだけでなく、常陸の暗文土師器を考えるうえで重要な資料である。今後は近年増加しつつある7～8世紀の資料の検討と合わせ、その歴史的意義について理解を深めることが必要であろう。

注

- 1) 畿内系土師器としてはつくば市中台遺跡C区SK03出土高壺（吉川ほか1995）がある（渥美2013）。
- 2) 「新型壺」は都城の土師器壺Cあるいは壺Aを模倣した土器で、それまでの古墳時代後期の土器とは明らかに異なるものとされる（鶴間2001・2006）。具体的な特徴としては、畿内産土師器壺C模倣の場合、器形は半球形を呈し、内面に暗文を施すことや外面にミガキを多用すること、口縁端部が小さく外反して口唇部内面に沈線を持つことなどが挙げられる。
- 3) 行方地域の土師器壺には内面を4分割して葉脈状の暗文を施すものが存在するという（渥美2013）。しかしこれらは今回紹介した暗文土師器とは異なる施文方法であることから、常陸国内部でも畿内産土師器模倣の様相に違いがある可能性も想定しうる。

引用・参考文献

- 渥美賢吾 2013 「常陸における七世紀の土器—その様式変化と史的背景—」『博古研究』第45号 pp.1-20 博古研究会
- 飯泉達司 2006 『田島遺跡（田島下地区）』茨城県教育財団文化財調査報告第253集
- 飯田浩彦ほか 2009 『田島遺跡（三面寺地区）』茨城県教育財団文化財調査報告第311集
- 石橋美和子 2012 『国史跡鹿島神宮境内附郡家跡』鹿嶋市の文化財第144集 鹿嶋市文化スポーツ振興事業団
- 石橋美和子・風間和秀 2005 『神野向遺跡』鹿嶋市の文化財第117集 鹿嶋市文化スポーツ振興事業団
- 石橋美和子・小松崎博一 2007 「LR18からのメッセージ—厨台遺跡群における湖西産須恵器搬入の様相—」『菟玖波』川井正一・斎藤弘道・佐藤正好先生還暦記念論集 pp.149-158
- 小野政美 2008 『田島遺跡（南光院地区・南光院下地区）』茨城県教育財団文化財調査報告第287集
- 川越俊一 2000 「藤原京条坊年代考—出土土器から見たその存続年代—」『研究論集XII』奈良国立文化財研究所学報第60冊 pp.1-32 奈良国立文化財研究所
- 木村浩二 2000 「東北地方の様相—古代土師器の生産と流通—畿内産土師器の各地への展開—」奈良文化財研究所
- 斎藤貴史・本橋弘巳 2010 『田崎遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第327集
- 曾根俊雄ほか 2012 『東成井山ノ神遺跡』石岡市教育委員会・ノガミ
- 鶴間正昭 2001 「関東における律令体制成立期の土師器供膳具」『東京考古』第19号 pp.69-115 東京考古談話会
- 鶴間正昭 2006 「畿内産土師器の模倣をめぐって」『法政考古学』第32集 pp.57-80 法政考古学会
- 林部均 1986 「東日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内産土師器」『考古学雑誌』第72巻第1号 pp.31-71 日本考古学会
- 中島広顯・松本太郎 2000 「関東地方出土の畿内産土師器」『古代土師器の生産と流通—畿内産土師器の各地への展開—』奈良文化財研究所

西弘海 1978 「七世紀の土器の時期区分と型式変化」『飛鳥・藤原宮発掘調査報告書Ⅱ—藤原宮西方官衙地域の調査—』奈良国立文化財研究所学報第31冊（のちに西1986『土器様式の成立とその背景』真陽社pp.93-134に再録）

林部均1992「律令国家と畿内産土師器」『考古学雑誌』第77巻第4号 pp.17-59 日本考古学会

堀越徹 1984『茨木遺跡地内（山内ストア建設予定地）発掘調査報告書』石岡市教育委員会

吉川明宏ほか 1995『（仮称）北条住宅団地建設工事 地内埋蔵文化財調査報告書（中台遺跡）』茨城県教育財團文化財調査報告第102集